

前回会議における意見
及び
国との意見交換の概要について



1 前回会議における意見

計画全般

- 「北海道Society5.0構想」は、北海道の未来に向けて取り組むべきことがよくまとまった形で提言されている。この会議では社会のグランドデザインをどう描いていくかについて議論していきたい。
- 社会をデザインする上で重要なことは局所最適ではなく、全体の最適解を目指すことであり、それは時に痛みを伴いながら、色々なものを壊す必要がある場合もある。
- MaaSや自動運転といった技術は、手段であって目的ではない。例えば、シームレス交通の実現のために重要となるのは、共通運賃や運行体制の整備など枠組みとなる公共交通ネットワークをどのように設計するかという仕組みづくりである。
- たとえ仕組みを作っても、使うインセンティブが湧かないと意味がなくなるおそれがあるため、インセンティブについて考える必要がある。
- スマート農業が進んでいる地域において、生産者は、自分たちの意識を変えることが重要であると言っている。使うメリットを感じることができるとどんどん進む。
- 基盤づくりなどは行政が得意だが、サービスは民間事業者の方が得意なので、産学官金で連携していくことが重要。
- 変える視点も重要だが、自然環境の保全といった「変わらない」ということも重要。
- SDGsの取組も取り入れていく必要がある。

- 「北海道Society5.0」は、20世紀において未熟だったICTというインフラが、21世紀においてある意味で完成の域に達し、それがあつことを前提に仕組みを作り変えることになるのではないかと思う。
- 従来型の仕組みと並行して新たな仕組みを走らせると矛盾を来す。新しいルールに移行するという覚悟を決めて取り組むべきである。
- 社会で言われるニューノーマルは、いかに感染しないかという視点に終始しているが、制限がある状況下で、いかに経済活動を行うか、安全で安心な生活の維持を図るかということを考え、実践することが重要であると思う。
- この国難への対応について、北海道の次世代化に向け、何を残すかを考えていきたい。
- 今あることをデジタル化するのではなく、**ICTを前提とした仕組み**を作らないと無駄が出てしまう。

暮らし

- 新型コロナウイルス感染症の影響で「**会いに行く**」ということの**価値**について、拠点づくりや人の交流を推進するという観点から議論が必要である。
- 新型コロナウイルスへの対応について、医師・看護師などの感染リスクを減らすために、**機械による自動化やロボットの活用**などが今後重要になる。
- 地域の医療格差の是正のための仕組みづくり、役割分担が重要である。
- テレワークが好例だが、心理的抵抗などにより、これまで当たり前と思って変えられないでいた行動様式が、コロナ渦でやらなければならない状況に追い込まれたことで、一気に進んだ感じがある。

産 業

- 観光は北海道の大きな産業の1つであったが、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けており、これから人をどう呼び込むかということも経済活性化の観点から考える必要がある。
- ものづくりも全て自動化されるのではなく、**匠の技を継承していくことが必要**なものもある。ここにAR・VR・MRを活用することも考えられる。
- ICTを使ってこうしたいというニーズが公衆衛生、産業、観光などの各分野から積極的に出てくるようになってほしい。

行 政

- 民間と行政ではデジタルトランスフォーメーションという点で、**スピード感**が全く異なる。**行政のデジタル化の推進**は重要であり、民間で当たり前に使われているクラウドサービスなどの便利なサービスを行政でも使っていくべきである。
- デジタルトランスフォーメーションの議論もSociety5.0の議論も、今の生活や社会の延長線上にないことも含まれており、そのようなことも模索しながら議論を進めることが重要である。また、その中では規制改革が必要となる場合もある。

データの利活用

- 情報をどう取得し、どう活用すべきかという議論は、個人情報の取扱いを含めて必要であり、利用者目線での仕組みづくり、サービスづくりについて議論し、模索したい。

基盤整備

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、テレワークやロボット等のICTの活用が増加しようとしており、データ量の増大が見込まれる。それに対応するためには**情報通信インフラの整備が不可欠**である。

3 国との意見交換

会議名 北海道IT施策推進連絡会議（DO IT 6）

日時 令和2年7月2日（木）10:00～11:20

場所 北海道本庁舎2階 総合政策部会議室

構成機関

- 北海道総合通信局
- 北海道経済産業局
- 北海道開発局
- 北海道運輸局
- 北海道農政事務所
- 北海道

今後、計画策定や「北海道Society5.0」の実現に向けて連携して取り組むことを確認

その他

＜各機関の今年度の情報化関連施策の取組について情報共有＞

- ・ 高度無線環境整備推進事業について（北海道総合通信局）
 - ・ 市町村の光ファイバー整備の補助事業に関する説明。
 - ・ 地域課題解決型ローカル5Gの実証事業に関する説明。
- ・ 中小企業等の生産性向上支援について（北海道経済産業局）
 - ・ 非対面型ビジネスへの転換やテレワーク環境の整備に関する補助事業に関する説明。
- ・ スマート農業実証プロジェクトについて（北海道農政事務所）
 - ・ 道内のスマート農業の実証事業の状況に関する説明。
- ・ MaaSの取組みについて（北海道運輸局）
 - ・ 令和元年度、2年度の事業に関する説明。

施策のポイント

- ✓ 情報通信基盤の整備
- ✓ 中小企業へのIT支援
- ✓ スマート農業
- ✓ MaaS
(AIオンデマンド交通事業等)

4 まとめ ～主なキーワード

★（星）印がついたキーワードは、新型コロナの影響で一層ニーズが高まっている。

計画全般にわたるキーワード

社会のグランドデザインを描く

SDGsの推進

技術は手段であって、目的ではない

ICTの活用を前提とした仕組みづくり

暮らしに関するキーワード

交通のスマート化の推進

★非接触のための機械による
自動化やロボットの利用

産業に関するキーワード

スマート農業の推進

未来技術を使った
職人の匠の技の継承

行政に関するキーワード

★行政のデジタル化の推進

★スピード感を持った行政運営

データの利活用に関するキーワード

★個人情報も含めた情報の取得方法の検討

基盤整備に関するキーワード

★情報通信基盤をはじめとしたインフラの整備が重要